

TIC NEWS

vol. **104**
2012.7

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



ポクロフスキー聖堂

富山県・ロシア沿海地方友好提携20周年

富山県とロシア沿海地方が1992年に友好提携を結んで今年で20周年になります。

この間、富山県と沿海地方は、県職員の派遣、留学生、研修員の受入れ等の友好親善交流、渡り鳥共同調査、日本海沿岸の漂着物調査などの環境協力事業、その他経済、文化等、広範囲にわたり相互交流を深めてきました。

イングリッシュ・チャット

日時：毎月第1・第3水曜日 19:00～20:30

場所：(公財) とやま国際センター

テーマに沿って、英語でのおしゃべりを楽しむイングリッシュ・チャット。毎回外国人ゲストが3、4名参加し、総勢25名程度の参加者で和気藹々と会話を楽しんでいます。外国人参加者の出身国は英語圏のみならず、ベトナムやエジプトなど様々です。1つの話題について各国の事情を聞くこともできるので、日本人・外国人双方にとって、英語での会話を楽しむだけでなく異文化理解の場にもなっています。



「講座ではないので、英語の『勉強』と言うよりも『練習』として落ち着いた気分で参加できます。7人～10人程のグループに分かれて、初めての方もレギュラーの方も一緒におしゃべりをします。興味のある方は、一度立ち寄ってみてください。」とコーディネーターの堀口陽世さん。

今後は“各国の怪談”や“ユーモア”など、面白そうな話題もとりあげます。申込み、予約は不要です。アフターファイブは英語のシャワーを浴びてリラックスしませんか？

【今後のスケジュール・テーマ】

7月18日	気候変動
8月1日	各国怪談
9月5日	世界の面白い祭り
9月19日	各国美意識の違い
10月3日	世界の食べ物
10月17日	住宅事情
11月7日	多文化共生
11月21日	ユーモア
12月5日	音楽
12月19日	ホリデー
1月16日	健康のためにしていること
2月6日	ウィンタースポーツ
2月20日	アカデミー賞の予測
3月6日	国際結婚

語学講座

日時：毎日 18:30～20:00

場所：(公財) とやま国際センター

中国語（入門、初級、中級）、韓国語（入門、初級、中級）、ポルトガル語（初級）、ロシア語（入門、中級）の9講座で開催している平成24年度の語学講座。5月から総勢193名が受講されています。

語学力だけではなく、各国の文化や最新の事情も知ることができるのがこの講座です。ある受講生からは、「ネイティブスピーカーから自然な発音や表現方法を習得でき、外国語で話す良い練習になります」という声が聞かれました。

初級、中級とレベルが上がるにつれ、日本語による文法等の説明は少なくなり、その言語のみで授業が行われることが多くなります。それがまたリスニング力の向上にもつながっているようです。

TICの語学講座については、ホームページに詳細な情報、スケジュールが掲載されていますので、是非ご参考ください！
<http://www.tic-toyama.or.jp/course/>



～国際交流員より着任のご挨拶！～

かく えいかん 郭 永煥さん（中国）

はじめまして、郭永煥と申します。韓国系の中国人で、中国遼寧省瀋陽で生まれ、今は遼寧省阜新市外事局の職員です。

私は日本語を外国語として中学から大学まで学びました。大学を卒業後、2001年に日本へ留学し、2002年から2008年まで6年間富山で生活しました。私は美しい富山が大好きです。富山は私の第二故郷と言っても過言ではありません。

今年4月、遼寧省政府から富山県に国際交流員として派遣され、勤務させていただくことになりました。私は富山県と運命的な因縁を感じています。今年は日中国交正常化40年にあたる重要な年で、この時期、再び富山で勤務、生活することになり、とても嬉しく思っています。私は日本と中国、富山県と遼寧省、日本人と中国人の相互理解や信頼関係、友好交流の促進のために一所懸命に頑張りたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いたします。



ちん りょう 陳 凌さん（中国）

皆さん、はじめまして。陳凌と申します。国際交流員として仕事をさせていただくことになり、本当にうれしいです。4月13日、富山に到着したとき、ちょうど桜が満開になったところで、まるで私たちを歓迎しているようでした。

中国の上海では、富山を知っている人はあまり多くありません。富山県には観光資源が多く、黒部峡谷トロッコ電車は山の中を回って走り、四季折々の風景だけでなく、時々、動物も見ることができます。立山黒部アルペンルートは、特に4月の全線開通時には「雪の大谷」として有名な雪の壁が続き、積雪が多い年には高さ20mにも達し、すごい迫力です。

私はこの雄大で素晴らしい風景を多くの中国人に知ってもらい、富山へ観光に来てくれるよう力を入れていきたいと思っています。



ジョアン ガブリエル シルバ マチアスさん（ブラジル）

皆さん、こんにちは！私はブラジルから来たジョアン・マチアスと申します。サンパウロ市出身なのですが、富山市に住み始めたら、雰囲気がとても気に入りました！サンパウロ市は広くて、1千万人以上の人口がある都市なので、簡単に町を回るのは難しいですが、富山市では自転車で仕事に行ったり、買物をしに行ったりするのが便利で、それは富山市の好きなところの一つです！

私をどう呼べばいいかという、名前は長すぎるので簡単にすると一つ目の名前の「ジョアン」だけで呼んでください！ブラジルでは人を名字で呼ぶのは珍しく、親しげな感じでみんなお互いに名前呼びます！

富山で仕事をしに来る前、日本に住んだことがあります。大阪に留学していたのですが、そこでの生活が気に入って、帰国してから頑張って日本に戻るために努めました。

私の顔を見たらとても若いと思うかもしれませんが、経験が少ない分、元気はいっぱいです。日本とブラジルの架け橋としての役割を一生懸命果たしたいと思っています！それでは、よろしくお願いたします！



富山県・沿海地方友好提携20周年

古くから日本と深い結びつきをもつロシア沿海地方。東アジア諸国に近接するこの地域は、ロシアでも国内でも政治的、経済的に重要な地域であり、近年目覚ましい変化をとげています。

富山県はロシア沿海地方との友好提携20周年を記念して、今年5月に訪問団を派遣しました。

極東連邦大学をはじめとして、日本語教育の質・レベルの高いことで知られているロシア沿海地方ですが、今年も富山県、在ウラジオストク日本国総領事館、沿海地方政府主催の日本語スピーチコンテストが行われました。今年19回目を迎えるコンテストには日本語を学ぶ児童・大学生ら20名が参加しました。

またドラえもんなど富山ゆかりの漫画を日本語教育機関5施設に贈呈しました。

あわせて「ロシア極東ポートセールス訪問団」がウラジオストク内で伏木富山港利用促進セミナーを開催し、現地から関係者45名が参加しました。月2便のロシア極東航路をもつ伏木富山港の利用促進を積極的に呼びかけました。

富山県はウラジオストクに「富山県ビジネスサポートデスク」を設置し県内企業の現地での事業展開などを支援しています。

【富山県ビジネスサポートデスク 問い合わせ先】

富山県商工労働部立地通商課物流通商班
住所：930-8501 富山市新総曲輪1-7
電話：076-444-3400 FAX：076-225-8753



ロシア沿海地方

首府：ウラジオストク
面積：165,900km²
人口：約198万人



「とやま漫画文庫」の目録を手渡す大野副議長

ウラジオストク便り

富山県国際・日本海政策課 沿海地方派遣職員

裏田 裕史



ロシア沿海地方の州都ウラジオストクは、日本人にとって最も縁のあるヨーロッパの街のひとつと言えます。距離的な近さもさることながら、市内を歩けば、日本に縁のある名所や旧跡をいくつも目にすることができます。市中心部の沿海地方裁判所は戦前の旧日本国総領事館、市内で最も有名な博物館「アルセーニエフ博物館」は、日本の銀行だった建物です。このほか、かつて日本人が経営していた商店、戦後に日本人抑留者の手で建設された施設が点在しています。

ヨーロッパの一部とはいえ、朝鮮半島や中国、そして日本に近いこの街は、歴史的にも、そして今も、環日本海地域と深いつながりがあります。ウラジオストク市民も、日本に対して関心を持っています。市内の道路や駐車場を見渡せば、多くの車が日本車であることに気づきます。みんな、日本の車が大好きです。



「ボルシチ」はロシア料理の定番



メインストリートのスヴェトランスカヤ通り

さて、このようなウラジオストクですが、もちろんここはロシアの一部。ヨーロッパ風の街並、シベリア鉄道、軍港として栄えた港や入り江、小さな島々など、異国情緒あふれる景観を楽しむことができます。また、広大な大地から得られる食材や海産物を使ったロシア料理も魅力です。私もロシアのスープ「ボルシチ」を毎日食べています。ロシアのケーキやお菓子はとても甘く、その美味しさを知るとやめられなくなるでしょう。このほかにも日常生活では、お釣りの出ないお店のレジや無愛想な店員さん、お湯の止まるシャワーなど、日本では味わえないスリリングで愉快的な体験も楽しめます。

飛行機で僅か2時間、日本から最も近いヨーロッパの街、ウラジオストクを皆さんも訪れてみませんか？今年9月に開催されるAPEC（アジア太平洋経済協力首脳会議）を前に、市内では新しい道路、空港、橋、ホテルの建設・改修が進み、街は今まさに変わろうとしています。ヨーロッパにありながら、東アジアとの深いつながりと調和を持ち、独特の雰囲気を出すこの街を皆さんも是非、体験してみてください！

国際交流員 シェルバチュク・アナスタシアさんに聞くー“ウラジオストク、ロシアのあれこれ”

Q. ウラジオストクでAPECが9月に開催されますね？

A. APECに向けてウラジオストクの街の風景は刻一刻と変わっていています。道幅は広がり、交通が一段と便利になり現在は世界で一番大きい斜張橋であるルースキー島連絡橋もウラジオ市創設記念日7月2日から供用開始となります。ルースキー島はAPEC会場としてのリゾート化も進んでおり、会議場、水族館等が建設されています。APEC終了後は極東連邦大学が移設される予定になっています。



Q. ナスチャさんにとってウラジオストクはどんな所ですか？

A. ロシアの他の場所に比べると、ウラジオストクの人にはオープンで接しやすく、話すのが早いです。半島に位置していますので海に囲まれていて美しい所です。坂が多く、その坂が生み出す活気の良さがあります。また気候が厳しいので人に頼らず自立した人が多いと思います。

Q. 日本にあったらいいと思うロシアのものは何ですか？

A. セントラルヒーティングです！あと、男性が女性に花をあげる文化は日本にあまりないですね。国際婦人の日に同僚の女性にバラを一本ずつ配ったりするのはロシアでは珍しくない風景です。日本の男性は一日中仕事をしているイメージですが、ロシア人は家族を第一に考え、長い休暇をとったりして家族との時間を何よりも楽しみます。日本の病院では看護師のほとんどは女性のような気がしますが、女性の医師はロシアに比べるとずっと少ないです。日本には専業主婦が多いですし、女性がパート等に留まるほうが税制上有利な仕組みのような気がしますが、ロシアではそのようなことはないです。

Q. ナスチャさんは国際交流員としてロシア語講座、国際交流出前講座などをされていますね。

A. 出前講座では学校で生徒にロシアの文化について話したりしています。日本の学校に比べるとロシアは教師の権威が強いです。悪いことをすると必ず両親は学校に呼び出されて生徒にはそれなりの制裁があります。親の躾にしてもいい意味で一般的に日本より少し厳しいと思います。悪いことをしたら叱られ、良いことをしたら甘やかされます。そのお陰で、子供の時からマナーを覚えますし、自分の行動に対する責任も持たせます。

ロシアは130以上の民族がいますので、みんなと同じでないからという理由で集団の中で孤立するようなことはほとんどないです。日本の教育のいいところは、語学で言えば、ネイティブの先生が多いことで、外国語と同時に異文化コミュニケーション・多文化共生の体験ともなります。

Q. 読者の皆さんへメッセージをお願いします

A. 日本の一番素晴らしい所は治安の良さですね。安心して住め、社会も安定しています。日本人はわかりあうまで時間がかかりますが、言葉や行動で表現することは少なくともも見えない所で他人のことを思いやっている人達です。富山は小さい県に見えますが、自然が綺麗で、レジャー施設や公園がたくさんあり、特に県外に行かなくても毎週末違った楽しみ方ができる良い所です。富山は本当に住みやすい場所で、私にとって第二の故郷です。



坂がちなウラジオストクの街



日暮れの金角湾

国際交流・協力、多文化共生担当市町村課長等会議

日時：平成24年6月1日(金)

場所：環日本海交流会館

富山県内の市町村、国際交流協会の連携と、国際交流・協力、多文化共生事業の促進を目的に開催しました。

講演では日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ代表理事の中河和子氏を講師に迎えて、「日本語支援活動が創る地域型共生社会」というテーマで講演会を実施しました。中河先生には、さまざまな日本語教育に携わった経験に基づき、地域日本語支援の役割や富山型支援の事例の紹介など、地域日本語支援活動の重要性や地域や行政との連携が今後の多文化共生社会の実現のためにも不可欠であるとのこと講演いただきました。

県内の市町村や国際交流団体が国際交流や国際協力、多文化共生等の活動に取り組む上で大変役に立つお話を聴くことが出来ました。



JICAボランティアからの現地レポート

今回はミクロネシア連邦から届いた青年海外協力隊 西村一也 さんからの便りをご紹介します。

ミクロネシア連邦はヤップ州、チューク州、ポンペイ州、コスラエ州の4州からなり、東西3000キロにもおよび、607もの島が存在すると言われています。歴史的に日本とは深い関係にあり、年配の人々の中には流暢に日本語を話す方もおり、そんな場面に出くわすと驚かされる事があります。また高校の授業には日本語の科目があり、道端では日本語で挨拶されることもあります。さらには日本人の血を引いている人も多くいるのでそういった意味では、世界的に見てもここまで日本と関わりがあり、かつ親日の国は珍しいのではないのでしょうか？

私はポンペイ州の環境保護局に配属され、廃棄物対策を中心にして活動しています。小学校へ出向いて授業をしたり、清掃活動を実施したりしています。また過去に実施した廃棄物調査では、いかに非生分解性廃棄物が多いかが分かりました。ちょうどその頃、ある町役場でアルミ缶を回収し、プレスしているという情報を掴みました。実際にその現場を視察したところ、家屋があまりにも老朽化しており、作業員の安全性・作業の効率性という点が著しく欠けていました。そこで日本の外務省が実施しておりODAの1つである「草の根人間の安全保障無償資金協力」を利用しての改修工事を提案し、同時に申請サポートを行いました。幸いにも承認を得る事ができ、工事も完了しました。今後、アルミ缶のデポジット制度が始まる予定なので、啓発活動を通し、まずは、アルミ缶から廃棄物の減量ができたらと思っています。任期も残りわずかとなりましたが、未だに言葉に不自由し、多くの葛藤があります。しかし、自分にできることがある限り、貪欲に活動していきたいと思っています。

帰国後はもうしばらく勉強したいと考えていますが、やがては、22年間生まれ育った富山県で教員として、地元に戻りたいと強く思っています。ひとまず無事に任期を満了し、元気に富山に帰りたと思っています。



ゴミ拾い用の籠をココナツの葉で編む活動

西村 一也さん (写真左端)
派遣国：ミクロネシア連邦
職種：環境教育
派遣期間：平成22年9月～平成24年9月
配属先：ポンペイ州環境保護局

～JICAボランティアへの応募を考えている方へのお知らせ～

JICAボランティア平成24年度秋募集以降は、応募の際に語学力申告台紙の提出が必要になります。募集時期になってから慌てて受験をしても間に合わなくなりますので、JICAボランティアに興味のある方は、お早めに語学試験（TOEIC、TOEFL、英検またはGTEC等）を受験されることをお勧めします。

～平成23年度外国人住民エッセイコンテスト入選作品より～

【優秀賞】

富山にきて

私 金 主彬 (韓国出身)



ある日、会社から帰ってきたお父さんに言われました。「日本に行くことになった」。私は、その言葉を聞き、心の奥がドッカンと鳴りました。まだ幼かった私には、日本という国が、見慣れなくて、大きくて、危険な場所のような感じがしました。私は、外国へ行くという楽しみな感じと、すべてが新しいという、不安で胸いっぱいになり、ひとり悲しくて泣いていました。でも、強く決心し、新しいことに立ちむかうことにしました。

日本にきた日、私は人々が何かの暗号でもしゃべっているように聞こえました。学校でも、みんなが何をしゃべっているのか、一つすらわかりませんでした。でも、みんなは私に話しかけてくれ、私はみんなの優しさにつつまれ、少しずつ日本語を覚えていきました。学校の友人のほかにCICでは先生方が優しく日本語を教えてください、私は、たったの4カ月で日本語がすらすらしゃべれるようになりました。

富山にきて不便だったことはありません。でも韓国であまり運動しなかった私は、学校での急な運動に苦労しました。けれど、だんだん生活にも慣れ、前よりは運動がうまくなりました。

勉強では、漢字が難しかったです。10点。毎日そんな点をとっていました。でも言葉がうまくなるにつれ、漢字もうまくなってきました。ただ一つ心配なことがありました。それは英語です。韓国ではみんな英語がペラペラです。私はまだ低レベル。でも必ずできるという気持ちで、今も英語をがんばっています。

夏休みに韓国に遊びに行きました。やっぱり韓国は、ふるさとという感じがしました。でもここ日本に3年間もいると、だんだん日本が好きになりました。食べ物も、今では、寿司や梅ぼしなどをおいしく感じるようになりました。国際交流フェスティバルで、家族みんなで韓国の歌を歌いました。聴いてくれた人から「歌、うまかったよ」「すごくよかった」と感想をいただきました。その時、私はあることを学びました。それは富山のみなさんのように、自分が言われてうれしいことを他人に言う！ということです。

富山にきてから多くのことが好きになりました。一つ目は本を読むことです。もともと本を読むことは嫌いではありませんでした。本がたくさんある富山に来てもっと好きになりました。二つ目は、文章を書くことです。私は富山でたくさん学ぶことができました。富山は私のもう一つのふるさとです。私が困った時に、たくさんの人々が手をさしのべてくれ、相手の気持ちを理解し、なぐさめてくれる富山が私は好きです。私はこれからも大好きなもう一つのふるさと富山を愛し続けたいと思います。

平成24年度草の根国際活動助成団体決定!

とやま国際センターでは県内で国際交流・協力活動及び多文化共生活動を実施する民間の非営利団体・グループに対し助成しています。平成24年度助成団体は以下の団体に決定しました。

	団体名	事業名
1	公益財団法人オイスカ富山県支部	「緑の植林協力隊」2012海の森づくり、マングローブ植林事業
2	高岡外国人の子どものことばと学力を考える会	高校進学を目指す外国人生徒のための学習支援教室開催事業
3	NPO法人 高岡鳩の会	日本語弁論大会開催事業
4	富山日豪ニュージージーランド協会	富山日豪ニュージージーランド協会創立30周年記念事業
5	富山日伯交流友の会	日伯交流事業
6	日本富山県中国雲南省友好協会	中国雲南省奨学金支給事業

ムーシューロウ
木須肉（豚肉、卵とキクラゲの炒め物）

中国北部の家庭料理です。タンパク質やカルシウムなどが豊富で、体にもよく、古くから愛されています。木須とは、桂という意味で、溶き卵が桂の花に似ていることから、この名前がつけられたそうです。

～作り方～

1. 豚ロースに溶きほぐした卵の白身半個分、塩、片栗粉を混ぜて、しばらく置く。
 2. キュウリを菱形に切り、えのきと水で戻したキクラゲと一緒に湯で15秒ぐらいゆでて、水を切る。
 3. フライパンにサラダ油を熱し、ネギのみじん切りとおろし生姜を加え、あらかじめ溶きほぐしておいた卵を軽く炒め、塩で味付けして取り出す。
 4. 次に1の豚ロースを油で炒めて、取り出す。
 5. 再度フライパンにサラダ油をひき、甜麺醤を入れて、香りが出るまで炒めた後、醤油を加える。豚肉を入れて、しばらく炒めてから、卵、キクラゲ、えのき、キュウリを投入し、軽く炒めて出来上がり。
- *卵と豚肉は炒めすぎず、ふわふわして柔らかいうちに取り出せば、よりおいしく食べられます。



馮さんと娘の琳可ちゃん

～材料～

- 豚ロース……………200g
- 卵……………3個
- 水で戻したキクラゲ…60g
- キュウリ……………1本
- えのき……………50g
- 甜麺醤……………大さじ1
- 醤油……………大さじ2
- 片栗粉……………大さじ1
- ネギのみじん切り……………少々
- おろし生姜……………少々
- 塩……………少々

TICからのお知らせ

これからの行事予定

国際交流フォーラムinなんと国際交流フェスティバル
“ふるさとの国際化～がんばっぺ、オラの大好きな日本”
7月1日(日) 13:30～15:00
福光中央会館 5階ホール
講師 ダニエル・カール氏



とやま国際塾

7月14日(土)～15日(日)
富山県呉羽青少年自然の家 *高校生対象

射水多文化共生理解教室

“イギリスの文化を理解する”
7月25日(水) 15:00～16:30 榎田コミュニティセンター

高度差4000m森里海フィールド親子教室

7月28日(土)海フィールド 富山高専「若潮丸」で富山湾へ
水圧実験、プランクトン採集・観察など
29日(日)森里フィールド 貸切バスで立山山麓へ
美女平、弥陀ヶ原高原、室堂平で自然観察
対象 小学校4～6年生 親子20組

第2回日本海学講座（野外講座）

“中世に栄えた放生津と現代の伏木富山港（新湊地区）を訪ねる”
8月30日(木) 13:00～16:40
射水市新湊博物館、伏木富山港事務所新湊出張所、他

富山県大学連携協議会公開講座 日本海学

9月1日・8日・22日
いずれも土曜日 13:30～16:20 県民会館302号室

外国人のための災害情報提供 “BOUSAIRADIO”

当センターでは防災意識の啓発を目的として5カ国語（英語、ロシア語、ポルトガル語、中国語、韓国語）でのラジオ番組を制作しています。
防災情報に加えて、毎日の生活に役立つ情報や各国で人気の音楽なども紹介します！

ラジオ防災情報番組

FMとやま 周波数82.7MHz
毎月第一日曜日 18:00～18:55

FM TOYAMA PODCASTING で過去の放送を聞くことができます。

（公財）とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費（1口）個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくご願ひ申し上げます。